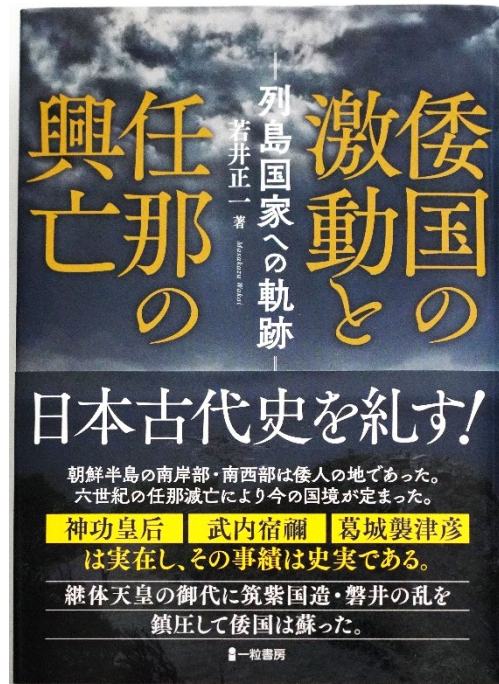


書名：『倭国の激動と任那の興亡 列島国家への軌跡』

価格：1200 円＋税

出版社：一粒書房

著者：若井正一



六世紀に任那を失い、それを以て対馬が我が国の国境と定まった。本書は、そこに至るまでの激動と興亡を描くものである。

◎朝鮮半島の南岸部・南西部は倭人の地であった。

◎弥生時代の倭人は文書を用いて中国と交流していた。

◎倭人は朝鮮半島南部で鉄を製造していた。

◎「加耶」ではなくて「加羅」が本来の名称である。

◎神功皇后は三六三年頃に新羅に攻め入り、三六七年に百済との国交を開いた。

◎「任那日本府」は三六九年に「安羅」に設置された。

◎武内宿禰は応神朝成立の立役者であった。

◎四〇〇年の高句麗・新羅との戦いを指揮したのは葛城襲津彦である。

◎好太王碑の「任那加羅」とは慶尚北道の高霊のことである。

◎六世紀に任那が滅亡し、我が国は完全な島国となった。

◎磐井の乱を鎮圧して大和政権は求心力を取り戻し、倭国は再び一体化した。